

# I 自己評価

<p>学校教育目標</p>	<p>自ら学び続ける意欲と態度を養い、知・徳・体の調和のとれた心豊かな人間を育成する。</p>		
<p>◇ 評価する領域・分野</p>	<p>学校経営</p>		
<p>1 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等</p>	<p>・学校の校訓である「自主・創造・友愛」に努めているという評価を9割近くいただいている。 ・学力だけでなく、健全な身体、豊かな心も含めた人間を育成しようとする校風が感じられるという評価は9割以上いただいている。</p>		
<p>2 今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<p>(1) 充実した授業・・・学ぶ楽しさ、わかる喜び 授業時間の活用と家庭学習習慣の定着を図る。また、基礎型学力、活用型学力、探求型学力、自らを表現する力（コミュニケーション能力）の育成に努める。 (2) 規律ある学校生活・・・凛として美しく 自己の確立（自己有用感、社会的自立）を目指し、正しい職業観（ライフプランの作成）を育てるとともに、基本的生活習慣の確立に努める。 (3) 開かれた学校 社会貢献（ボランティア活動、家庭・地域への貢献）、広報活動（メールの活用、地域との連携）に努める。</p>		
<p>3 重点目標を達成するための校内における組織体制</p>	<p>・企画委員会、職員会議を通して共通理解を図る。また、生徒指導委員会や特活指導委員会を通じて、関係職員が情報を共有し、対応方針を決定する。</p>		
<p>4 目標の達成に必要な具体的な取組</p>	<p>5 達成度の判断・判定基準あるいは指標</p>		
<p>(1) 基礎学力の定着を図る指導 (2) ICTを取り入れた授業研究 (3) キャリア教育の充実（特に「産業社会と人間」） (4) 全校職員の協力体制の中での一貫した生徒指導 (5) 部活動の奨励、学校行事の充実</p>	<p>(1) 家庭学習時間、考査結果や課題の提出状況 (2) 生徒の授業での活躍、授業アンケート (3) 産社ノート、ライフプラン発表等 (4) 交通事故や遅刻の減少、教育相談体制の活用 (5) 部活動の成果、学校行事の満足度</p>		
<p>6 取組状況・実践内容等</p>	<p>7 評価視点</p>	<p>8 評価</p>	
<p>・基礎学力の定着とICTの利用をテーマに相互参観授業や授業アンケートを実施し、教科指導力の向上に努めた。 ・迷惑調査、防犯講話、自転車安全運転講習、一斉登校点検等を実施し、安全・安心な学校生活の確立に努めた。 ・ライフプランの作成と発表等により、キャリア教育の充実に努めた。</p>	<p>①生徒は学習等、教育活動において積極的に活動しているか。 ②事故が減少し、安全・安心な学校生活が確立できたか。 ③生徒がライフプランの作成等に主体的に学べたか。</p>	<p>A (B) C D A (B) C D A (B) C D</p>	
<p>9 成果・課題</p>	<p>○ICTの利用と基礎学力の定着をテーマに公開授業週間を設け、教員相互に交流を図ることで充実した授業研究ができた。 ○部活動において、ホッケー部男子のインターハイ、国体での活躍及び、太鼓部や吟詠剣詩舞部及び箏曲部の全国大会での活躍がみられた。その他、マルチメディア部等、多くの部で好成績を残した。また、資格試験、検定試験等に積極的に取り組み輝かしい成績を収めることができた。 ○職場体験や職業実習などが充実して実施され、自己の確立とともに正しい職業観をもたせる取組がしっかりできた。 ▲一部の系列や生徒会におけるボランティア活動等による社会貢献だけで、学校全体としての社会貢献等にやや不十分さを感じる。</p>		<p>総合評価 A (B) C D</p>
<p>10 来年度に向けての改善方策案 各教科において、さらなるICTを活用した授業の実施と工夫改善を推進し、教員の意識の改革と授業力向上に努める。また、働き方改革において、様々な取組を検討する。 生徒と保護者にとって、安全・安心な学校づくりを一層推進するとともに、地域との連携を深め開かれた学校づくりをさらに努める。</p>			

◇ 評価する領域・分野		教務・学習指導	
1 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	生徒による授業評価アンケートにおいて、「授業中に自分の活動する場が設けられている」を「そう思う」とした生徒が初めて70%となった。近年、生徒が主体的に学ぶ授業展開を心がけてきた結果が出ていると思われる。今後は、ICT機器も活用しさらなる生徒が主体的に学べる授業を展開したい。		
2 今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) 生徒一人一人の特性等に応じた学力の伸長を図るため、年間指導計画に基づいた創意工夫のある授業展開を研究する。 (2) 家庭学習の習慣化を図るために、生徒の特性に応じた課題のあり方を検討し実施する。 (3) 学習内容の効率的な定着を目指し、生徒が主体的・協働的に学ぶ学習の更なる研究と実践を通して、教員一人一人の指導力向上を目指す。		
3 重点目標を達成するための校内における組織体制	・教務部（企画広報、教務、学習指導、情報管理） ・教育課程委員会、教育力向上委員会、系列担当者会、教科会、行事検討委員会、科目選択指導者会議		
4 目標の達成に必要な具体的な取組	5 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) シラバスの作成、学習規律の確立の指導、公開授業と授業研究の実施。授業改善に関する教員研修の実施 (2) 生徒による授業反省・授業評価の実施	(1) 授業での生徒の様子、授業アンケートや定期考査などの結果、公開授業の参観者のコメントと研究グループまたは教科別の目指す授業像の確立 (2) 課題の提出状況、資格・検定の取得状況やコンテストなどの成果、家庭学習時間調査 (3) 科目選択及び教育課程に関する意見や要望		
6 取組状況・実践内容等	7 評価視点	8 評価	
・11月及び1月に公開授業旬間を実施し教員が、相互の授業を参観し、授業評価を行った。 ・8月の教育課程講習会参加者による、各教科での伝達を行い、新学習指導要領で開講する科目についての研究をし、カリキュラム作成を行った。 ・生徒の多様な進路希望に対応できるように、科目選択の幅を広げた。	①生徒が、主体的能動的に学ぶ授業展開となっているか。生徒がいきいきと学習に取り組んでいるか。 ②授業アンケートの結果、考査の出来具合はどうか。 ③興味・関心及び進路希望に応じた科目選択ができ系列の学習に積極的に取り組めたか。	A (B) C D (A) B C D A (B) C D	
9 成果 ・課題	○各教員で公開授業を行った。特に1月の取り組みでは、整備されたICT機器を用いての授業展開を研究し・実践し共有することで、各教員の授業力向上に役立った。 ○『生徒による授業反省と授業評価』を前期期末考査時に行った。一昨年、昨年と比べほぼ全ての授業評価について良いと評価した生徒の割合が上昇していた。生徒の生の声を集約でき各教員が授業内容の改善に活用した。 ○整備されたICT機器の研修会を積極的に行い、各教員のスキルアップに取り組んだ。		総合評価 A (B) C D
10 来年度に向けての改善方策案			
・新学習指導要領の実施に向け、各教科において科目の研究を行うとともに、生徒に身に付けさせたい学力を整理し、カリキュラムの編成を進める。 ・来年度2年次より実施する「総合的な探究の時間」を全校挙げて取り組むとともに、次年度3年次での探究内容を各系列で研究し7月までに道筋を立てる。 ・整備されたICT機器を有効に使うために、さらなる校内研修を行い、相互授業参観を通して教員のさらなるスキルアップを目指す。			

◇評価する領域・分野	進路指導		
1 現状・生徒・保護者を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の可能性を引き出す指導がなされているという点について生徒は、肯定的な意見が増えた。</li> <li>・職業観や人生設計について産社の授業やインターンシップを肯定的に捉える意見が増えている。</li> <li>・進路情報の提供に対して、ガイダンス(生徒・保護者)を工夫し肯定的な意見が増えた。</li> </ul>		
2 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>①メタ認知力を向上させるため、自己の直面している課題を分析し自ら一歩前に踏み出す姿勢を育成する。(自己理解)</li> <li>②課題を見つけ、主体的に情報収集し、知識を統合し、課題を解決するための知識創造ができる力を育成する。(知識活用と創造性)</li> <li>③協調性・ストレスコントロール・コミュニケーション力(傾聴力・発信力)・課題発見対応力など、社会人基礎力を育成する。(協働と人間関係形成力)</li> <li>④社会や時代の変化に柔軟に対応できる人生のマネジメント力を育成する。(人生設計力)</li> </ul>		
3 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路選択と支援について進路指導部が計画立案し各年次会、系列、教科の情報共有と協力のもと実施していく。</li> <li>・各進路行事で関係職員との連携を密にして、生徒への指導、情報提供を行う。また、成果と改善点に関して各種該当委員会で検証し修正していく。</li> <li>・進路指導部内で研究組織をつくり教材・評価についての研究をする。</li> </ul>		
4 目標の達成に必要な具体的な取組	5 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
<ul style="list-style-type: none"> <li>①メタ認知力向上に向け、「学びの基礎診断」とキャリア教育を結び付けPDCAサイクルを意識した制度設計。</li> <li>②「産業社会と人間」について、資質・能力の養成観点を明確にしたICEルーブリックの作成と評価方法の改善。多面的能力評価の方法について実践的研究を継続して実施。</li> <li>③キャリア支援プログラムを通し、協働する場の設定を行う。</li> <li>④高大接続を意識した総合学習と科目選択指導、ウィークデーキャンパス訪問、企業と連携した職場見学、県内企業を呼びジョブフェアの開催など、キャリアプランニング力の向上を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①3年間の学力推移と学びに向う態度の変化をキャリア教育の検証プログラムと結び付け、効果について分析する。</li> <li>②「産業社会と人間」について、学びの基礎診断を活用し学力3要素の変化について検証を行う。</li> <li>③キャリア支援プログラムについて、進路状況のデータから検証を行う。</li> <li>④進路内定率や第一志望内定率、卒業生アンケートや進路内定者アンケートの経年比較から検証する。</li> </ul>		
6 取組状況・実践内容等	7 評価視点	8 評価	
<ul style="list-style-type: none"> <li>①アンケートやライフプラン作成により3年間の学びの振り返りを行った。推薦・AO入試内定者や卒業生へのアンケートと学力推移を結び付け科学的に検証する。</li> <li>②「産業社会と人間」の単元ユニットごとで学習状況リサーチを行い、授業の資質能力別評価、学びの基礎診断の学力推移を連動させた検証を行った。Japan-e-Portfolioを活用したインターンシップレポートの作成など、学びの振り返りを実施。</li> <li>③ディスカッションやジグソーメソッド、コンセンサスゲームなどキャリア支援及び進路支援プログラムで実施した。</li> <li>④業者と連携して、多数の企業や上級学校を招き3年次保護者と生徒を対象にしたジョブフェア及び進学フェアを開催した。1・2年次生の企業見学会、2年次オープンキャンパス参加などキャリア形成に必要なイベントを実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①進路決定に対し自分について客観的な評価ができ、かつ進路目標に向けた主体的な取り組みにより学習成果が上がったか。</li> <li>②社会人基礎力の評価と学力推移に相関性が見られるか。</li> <li>③入試結果で検証する。</li> <li>④就職・進学内定率、ライフプランや系列との関連性について検証する。</li> </ul>	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p> <p>(A) B C D</p>	
9 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲①出願にあたり自己を振り返って評価される点や自己の適性、ライフプランを重視して、志望校や入試方法を選択して合格している生徒は8割を超える調査結果となっている。一方、意欲や主体性が学力にどの程度影響しているのか検証については②の研究の成果を待ちたい。</li> <li>○②「産業社会と人間」の学習目標である、考え抜く力、協働できる力、行動する力といったキーコンピテンシーの育成や生成が学習のレディネスと動機を整え、主体的な学びへと結びつき、学習成果に影響を与えるとする仮説を検証するためのデータ収集と解析を開始した。</li> <li>○③12月末で、大学を第一志望とし推薦・AO入試で出願したのは103人、内合格者は85人で合格率83%となっている。ディスカッションやプレゼン、ワークショップなどの入試について3年間のキャリア支援プログラムが十分な成果をあげたと考える。また、就職試験についても第一志望は、49名中48名が合格し合格率は98%であった。課題は、来年度の「総合的な探求の時間」の中でさらに資質能力を磨く教材開発が急務である。</li> <li>○▲④系列と進路先の関連は、就職が81%、進学73%で3年前に比べどちらも8ポイント上昇した。また、進路先を選んだ理由についての調査では、分野への興味関心・学習の継続性などライフプランとの関係が上位を占めている。課題として、就職・進学共に、保護者と生徒の上級学校に対する認識の相違から進路決定ができないケースが増えている。また、入学前の支払金が準備できず希望の学校へ進学できない生徒も増えている。</li> </ul>		<p>総合評価</p> <p>A (B) C D</p>
<p>10 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人基礎力・学力・主体性についてデータ解析を進め、総合学科教育を数値化し可視化を図りたい。</li> <li>・探求の時間については1年次のインターンシップと連動した教材を企画中である。</li> <li>・来年度の、5月3年次保護者説明会の進学希望の保護者については本年度実施した分野別ガイダンスではなく、進学マネープランに関するワークショップを開催し奨学金を含めた研修会を開催したい。</li> </ul>			

評価する領域・分野	生徒指導・教育相談		
1 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・凛として美しくをモットーに、頭髮・服装・マナー等の指導に重点を置いている中、生徒及び保護者から良い評価（約90%）を得ているが、県より校則の見直しを迫られている。生徒の自主性から公正な態度で生活できることを期待する。総合生のスタイルを崩さないように、今後も指導していきたい。</li> <li>・いじめは、見えないところで（ネット上含む）起きているケースが多いと思われる。友人同士の関わり方で、ほど良い距離感をもち、束縛せず付き合えるようになってほしい。</li> </ul>		
2 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 凛として美しい身なり・言動・姿勢で学校生活を送らせる。</li> <li>(2) 自他の生命を大切にすると、規範意識の向上を育成する。</li> <li>(3) 基本的な生活習慣全般の指導をする。</li> <li>(4) 情報に関するモラルを正しく理解し、正しく利用させるように指導する。</li> <li>(5) 自己指導能力およびコミュニケーション能力を育成する。</li> </ul>		
3 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員、生徒会、各種委員会、MSリーダーズ（MSL）、保護者との連携を図る。</li> <li>・早期発見・早期対応をするため、生徒指導部、担任、年次会、部顧問との連携を図る。</li> <li>・すべての教師による生徒指導および教育相談を推進する。</li> <li>・毎月の職員会議で指導経過報告や生徒の情報交換を行う。</li> <li>・職員朝会で交通事故、問題行動等の速報を伝え、職員に情報提供する。</li> </ul>		
4 目標の達成に必要な具体的な取組	5 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 全校集会の度に、マナー等の向上を呼びかける。</li> <li>(2) 交通安全集会、朝の交通指導等で安全意識の向上を図る。</li> <li>(3) 情報モラル講話を前期・後期に実施し、意識を高める。</li> <li>(4) 生徒・職員による朝の登校指導を実施。</li> <li>(5) 全校一斉登校点検(年間7回)を実施。</li> <li>(6) 生徒理解のための職員研修会を実施。</li> <li>(7) 職員会議や朝会の場で生徒情報共有・共通理解を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) ～ (3) 交通事故件数と交通マナー違反件数および情報モラルに関する苦情。</li> <li>(4) 生活委員による登校指導（挨拶・身だしなみ）の状況。</li> <li>(5) 全校登校点検の検査結果と再検査の状況。</li> <li>(6) 問題を抱えている生徒・要支援生徒の共通認識と支援方法。</li> <li>(7) 多遅刻・多欠席状況などの気になる生徒および問題行動等の情報交換を行い、共通理解を図る。</li> </ul>		
6 取組状況・実践内容等	7 評価視点	8 評価	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月に交通安全強化指導を実施。全国・県民交安運動および交安の日を設け、登校時交通安全指導を行った。10月より交通安全委員による全校放送（昼休み）で啓発活動を実施した。</li> <li>・春の情報モラル講話は岐阜南警察署生安課長より防犯講話の中に取り入れていただき実施した。秋は実施できなかった。</li> <li>・全校一斉登校点検を年間7回実施。</li> <li>・生徒理解のための職員研修会を教育研修課の先生を招き実施した。また、毎月の職員会議後に生徒の情報交換を実施した。</li> <li>・今年度はパシリスサポートの活用は3回。昨年度に比べ減少したが心の悩みを持つ生徒は多く、相談室、SCを中心に対応した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①交通事故件数の増減。交通マナー苦情件数。情報モラル違反の件数。</li> <li>②登校点検の再検査で全員が合格できたか。普段の生活の中での指導。</li> <li>③要援助生徒の情報交換をし、担任、年次会、部顧問、教育相談係、外部機関、保護者との連携ができたか。</li> </ul>	<p>A B <b>C</b> D</p> <p>A <b>B</b> C D</p> <p><b>A</b> B C D</p>	
9 成果・課題	<p>○2か月に1回の登校点検は自分を見つめるため必要と考える。その中で、女子生徒の化粧に対する指導が難しく課題となった。</p> <p>○遅刻欠席が増加。要因は不登校生徒の増加と体調不良によるもの。休学4名、転学8名で過去7年間で最も多い人数である。</p> <p>▲昨年度まで7年連続30件を超える交通事故。今年4月0件で好スタートを切った。8月までに10件発生したが、昨年の半数以下であった。しかし、夏休み後は急増し現在までに29件となった。心の油断ではないかと思われる。啓発活動を増やすことも検討する。</p> <p>▲人間関係、友人関係のトラブルが気になる。友達作りや友達との距離感を上手くとれないことや、SNSでの問題が原因とみられる。いじめに発展しないように未然防止の対応策を検討する。</p>		
<p>10 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通事故については、相手（車）が悪いケースも多々あったが、後期に入ってから急増は、油断や安易な考えからではと思われる。10月下旬から、交安委員により週1回の放送で呼びかけをしたが年間通じて行うことを検討したい。また、外部講師による講話も企画したい。</li> <li>・人間関係の構築や友達作りが上手くいかないのは、自分のことしか考えていないからではないか。友を独占したり、言葉で伝えずSNSでつぶやいたり批判したりする。友達の存在・先輩後輩の存在などについて、話し合う機会も必要ではないだろうか。</li> </ul>			

◇ 評価する領域・分野	特別活動	
1 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人一人が各種委員会活動などに積極的に参加している。</li> <li>・一年間を通じて諸行事に積極的に参加し、充実した学校生活を送っている。</li> </ul>	
2 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>(1) 生徒会活動について 校内諸活動に生徒が進んで参加し、望ましい学校生活が営めるように努める。</p> <p>(2) ホームルーム活動について 正しい倫理観と奉仕する心を身に付け、豊かな情操と道徳性の育成に努める。</p> <p>(3) 部活動について 自主的・意欲的な活動によって学校生活を充実させるとともに、心身の調和のとれた発達と民主的な人間関係を醸成する。</p> <p>(4) 広報活動について 生徒の活動・活躍を保護者、地域の方々に理解、協力を得られるように努める。</p>	
3 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各分掌、年次会と生徒会、常任委員会の連携</li> <li>・部活動委員会、部顧問会議における部活動指導</li> </ul>	
4 目標の達成に必要な具体的な取組	5 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 生徒の状況把握のため年次会との連携 (2) 一年次生の部活動における活動調査	(1) 生徒会活動、ボランティア活動参加 (2) 部活動の定着率と大会などの成績	
6 取組状況・実践内容等	7 評価視点	8 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学園祭、ゆうやけコンサート等生徒による企画運営</li> <li>・エコキャップ回収などのボランティア活動</li> <li>・学期末における1年次生の部活動調査</li> <li>・チラシやポスターを制作し生徒会活動の広報活動</li> </ul>	<p>① 積極的に諸活動に参加できているか。</p> <p>② 正しい倫理観をもって諸活動に参加できているか。</p> <p>③ 目的をもって諸活動に参加し、成果を挙げることができたか。</p> <p>④ 生徒会が計画する行事について、保護者・地域の方々が参加して頂けたか。</p>	<p>Ⓐ B C D</p> <p>Ⓐ B C D</p> <p>A B Ⓒ D</p> <p>A Ⓑ C D</p>
9 成果・課題	<p>○生徒一人一人が、学校行事や、委員会活動、部活動等の諸活動において、意義を見だし、積極的に取り組む姿勢が、学校の活力となることができた。</p> <p>○生徒一人一人の自主的活動をサポートする体制として、校内に生徒活動支援部を立ち上げた。</p> <p>▲部活動において、自主的な活動に子年度からなり、やや定着率が悪くなった。一人一人の生徒がより目的を持って諸活動に取り組める体制作りを研究していきたい。</p> <p>○学園祭についてHRの活動の発表を中心と変更し、HRへの帰属意識を高めることに努めた</p> <p>▲LHRを充実させ、HRを中心とした活動が出来、より帰属意識を持った取り組みが出来るよう、体制作り、内容について研究していきたい。</p>	
10 来年度に向けての改善方策案	<p>それぞれの活動における学校への規範意識の向上と、奉仕する心の育成、活動のより明確な目的意識の設定と、社会の一員としてのモラルやマナーを守る姿勢を培う。</p> <p>部活動において、活動についての見直しや部活動以外の生徒の自主的活動についても支援できる体制を作り、一人一人がより活躍できるようにサポートする方法について検討する。</p> <p>生徒会活動・HR活動においてより積極的に参加できるように、生徒一人一人の個性を尊重しつつ、活動を通して協調性、規範意識を高める姿勢を培う。</p> <p>LHR活動の充実化を目指し指導法の研究を行う。指導となる指針をHR担任に提示できるように、年間の指導案などについて研究・研修を行う。</p> <p>保護者、地域の方々により生徒の活動を理解していただけるよう、又新聞社などへの働きかけなど計画的に行い、より良い広報活動の研究をする。</p>	
総合評価 A Ⓑ C D		



◇ 評価する領域・分野		保健厚生	
1 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等		・該当する項目について、概ね良く評価されており特に大きな問題はないが、個々の意見・提案等について、改善・実施できることは、前向きに取り組んでいきたい。	
2 今年度の具体的かつ明確な重点目標		(1) 運動を積極的に実践継続していく能力と態度の育成の向上に努める。 (2) 清掃意識の高揚と積極的な清掃活動をとおして、快適な学校環境づくりに努める。 (3) 学校内外における事故等に対する危機管理態勢を確立する。	
3 重点目標を達成するための校内における組織体制		・職員：保健厚生部（健康体育課係・環境推進係・学校防災係） ・生徒：保健委員会・環境美化委員会	
4 目標の達成に必要な具体的な取組		5 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 集団行動の徹底、新体力テスト・耐寒競歩大会を通じた運動の実践 (2) 自己の健康管理 (3) 清掃活動 (4) 安全保全		(1) 行事・集会等の集合状態と様相 県内高校での順位や活動状況 (2) 保健室利用状況と利用内容 (3) 清掃状態の点検・確認 (4) 実施状況・参加状態の確認	
6 取組状況・実践内容等		7 評価視点	8 評価
・行事・集会時等は素早い行動。新体力テストへの積極的な取組と耐寒競歩に向けての走り込みを実施。 ・保健室の利用状況、生徒の健康状態の把握 ・環境美化の推進 ・命を守る訓練、AED講習会の実施 ・防災に関する意識づけと自衛消防組織の研修		① 行事・集会時、素早い行動が、出来たか。新体力テストの結果は、走り込みができたか。 ② 利用状況と内容はどうか。 ③ 清掃状態はどうか。 ④ 命を守る訓練・AED講習 ⑤ 自衛消防組織は機能的か。	Ⓐ B C D Ⓐ B C D Ⓐ B C D A Ⓐ B C D A Ⓑ C D
9 成果・課題	○集団行動では、担当職員が早い時間から指導を始め、生徒も素早い行動が出来た。新体力テストでは、今年度も良い成績であった。 ○保健室の利用において、怠学傾向の生徒利用もなく適切であった。 ○AED講習会は、職員とスポーツ科学系列の生徒が受講し修了証を受けた。 ○職員対象に自衛消防組織について学ぶ講習会を実施することができた。 ○普通教室のワックスがけと中庭の除草活動を行った。 ▲防災に対する意識づけが、職員に対しても生徒に対しても十分、出来なかった。		総合評価 Ⓐ B C D
10 来年度に向けての改善方策案			
・今年度は概ね良い活動・実施状況であったので、来年度も今年度同様、活動・実施していきたい。 ゴミの分別、マナーについては、全校集会やHR、委員会を通し、生徒の意識向上を図りたい。 ・教室以外のワックスがけや中庭の除草をボランティア以外で行うことを検討したい。 ・学校防災関係は、全生徒の防災への意識向上も含め、HRでの活動を検討していきたい。また、災害時の学校備蓄品の整備を進めていきたい。 ・教室のエアコン使用に伴って起こる健康上の問題はなかったが、教室の換気も含め、注意深く見ていきたい。			

2 評価する領域・分野	◇ 図 書	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学校は、生涯学習の一環として朝読書や読み語りの会など読書啓発に努めている」という問いに対して、生徒は91%の生徒が「Aよくあてはまる」、「Bややあてはまる」と肯定的な回答をしているのに対して、保護者はABの合計が89%とやや少ないが、いずれも高評価を得ている。前年度と比べても学校全体での肯定的な回答を得ている項目の上位に位置している。これは、担任の先生方はじめ諸先生方の協力による「全校一斉朝の10分間読書」の成果である。</li> </ul>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 読書を通して豊かな人間性を涵養するよう努めるとともに、教育課程の展開と進化に寄与する。</li> <li>◇ 学習や教養の情報センターとして、多様な興味や関心に応じられる機能の充実に努力する。</li> </ul>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書運営委員会（各教科、年次会との連携）</li> <li>・生徒図書委員会</li> <li>・部活動との連携</li> </ul>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 「朝の読書」、読書感想文コンクール、読み語りの会などにより読書習慣を身に付けさせる。</li> <li>(2) 広報誌の発行、館内外ディスプレイ、図書委員会活動により来館者・貸出数の増加を図る。</li> <li>(3) 十分な資料を揃え、学習センターとしての役割を果たす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) アンケートや「朝の読書」体験文を書かせるなどして読書習慣が身に付いたかを把握する。</li> <li>(2) 図書館アンケートと貸出状況の統計により、来館者が増加したか、貸出状況はどうかを分析する。</li> <li>(3) 図書館利用状況の統計と先生方からの要望等を分析する。</li> </ul>	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評 価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生にも本を読むことをお願いし「朝の読書」が静かな環境で実施できた。</li> <li>・図書館だより「A.L.L」の掲示と全校配布の「朝読なう！」・「新着図書案内」を発行し、職員・生徒に情報を発信した。また、館内外のディスプレイなども工夫した。</li> <li>・教師の要望に応えた選書と生徒による店頭選書などで蔵書を充実するとともに、適宜相互貸借を行い授業支援に努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 静かで落ち着いた環境の中で読書に集中させることができたか。</li> <li>② 一人でも多くの生徒に、読書への興味・関心を持たせることができたか。</li> <li>③ 十分な資料をそろえて、教師・生徒の両者が満足できる授業支援ができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A B C D</li> <li>A B C D</li> <li>A B C D</li> </ul>
11 成果 課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○落ち着いた環境で、毎日「朝の読書」を実施することができた。</li> <li>○図書館だよりの工夫など生徒図書委員会の活動を充実させることができた。</li> <li>○読書指導の一環である「読み語りの会」は、2回とも盛況であった。</li> <li>○夏季休業中課題として読書感想文を全校生徒が提出した。校内読書感想文コンクールを開催し、優秀賞2名、佳作7名を表彰した。</li> <li>▲読書に興味・関心のない生徒や読む習慣が身に付けていない生徒に興味・関心をもたせる工夫が必要である。</li> </ul>	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「朝の読書」がより一層充実し、生徒一人ひとりが読書習慣が身に付けられるように広報活動を工夫したい。</li> <li>・図書館利用者の増加を図る一層の工夫を行い、授業で使える場所、生徒が憩える場所、本を通して人と出会う場所としての図書館運営に努めたい。</li> <li>・読書に興味・関心のない生徒にもより豊かな読書体験が得られるよう、折に触れて先生方から読書案内をしていただくなど、読書習慣の確立と読解力向上に努める。</li> </ul>	
		総 合 評 価 A B C D



◇ 評価する領域・分野	渉 外	
1 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育方針や指導の内容を保護者(地域)にわかりやすく伝えている。</li> <li>・保護者(地域)が、授業や学校行事等を参観する機会を設けている。</li> </ul>	
2 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>(1) 学校とPTAの連携をより強化し、生徒が明るくいきいきとした学園生活が送れるように援助する。</p> <p>(2) 学校行事の取組を通して、各種委員会の活性化を図る。</p>	
3 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者：PTA会員（本部役員・運営委員・各種委員会との連携）</li> <li>・卒業生：同窓会会員</li> </ul>	
4 目標の達成に必要な具体的な取組	5 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<p>(1) PTA本部役員・運営委員との委員会の実施。</p> <p>(2) 将来の職業選択や進路実現に向けた取組及び、授業の参観としてPTフォーラムの実施。</p> <p>(3) 進路指導委員会・同窓会会員の取組としての面接指導の実施、生活指導委員会の取組としての登校時における挨拶指導の実施、保体厚生委員会を中心としたPTAバザー・炊き出しの実施。</p>	<p>(1) 学校の様子を理解し、より多くの会員が学校行事に参加することができたか。</p> <p>(2) 学校を理解し、保護者にあった助言ができたか。</p> <p>(3) 学校を理解し、教員とともに生徒のための助言ができたか。</p> <p>(4) 生徒が充実した活動ができるように学校との連携のもと側面的援助ができたか。</p>	
6 取組状況・実践内容等	7 評価視点	8 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA総会に先立って学校開放し授業参観を実施した。普段の生徒の様子を知る。</li> <li>・学校行事に対して側面的な協力をする。</li> <li>・PTフォーラムを学校と家庭、生徒と保護者の関わりの場として位置づけた。</li> <li>・PTA研修は、より具体的な案や要望を取り入れた。企業見学をした。</li> </ul>	<p>①学校とPTAの連携が満足できるものであったか。</p> <p>②一人でも多くの保護者に興味・関心を持たせることができたか。</p> <p>③保護者の積極的な参加を促すことができたか。</p>	<p>(A) B C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p>
9 成果・課題	<p>▲PTA総会、PTフォーラムにより多くの人が参加できるように進める。</p> <p>○会員との連携をより進めたことでPTA研修、学園祭・耐寒競歩大会での学校行事に対する参加者が増えた。</p>	
<p>10 来年度に向けての改善方策案</p> <p>今年度は、概ね良い活動や実施状況であった。来年度も今年度同様な活動を実施していきたい。</p>		

◇ 評価する領域・分野		1 年 次	
1 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上級学校見学会や路希望調査により、多くの生徒は進路に関する意識を向上させている。</li> <li>・「産業社会と人間」を通じて、望ましい職業観を育成している。</li> </ul>		
2 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 主体的な学習態度を育成するとともに、様々な体験や情報を通じ、自ら考え判断し行動できる力を育成し、自己のあり方を探求させる。</li> <li>(2) 自己を見つめ、自己の個性を発見し伸長させるとともに、お互いを尊重する思いやりの心、協力し合う態度を育む。</li> <li>(3) 社会や集団の一員としての所属意識を高め、自覚と責任を育み、規律の大切さを理解させ、自己実現を図る能力を育成する。</li> </ul>		
3 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年次会における情報共有（毎週の打合せ会及び毎月の年次会）</li> <li>・教務部、生徒指導部、進路指導部、系列、部活動との連携</li> <li>・学園祭、年次運動会などの行事へのクラス、年次単位での取り組み</li> <li>・クラス独自のロングホームルーム企画の研究と実施</li> </ul>		
4 目標の達成に必要な具体的な取組	5 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 「産業社会と人間」における進路情報の収集や体験的な学習を通じて、職業観の育成と進路実現に向け努力させる。</li> <li>(2) 学校行事や部活動に積極的に参加させる中で、一人一人の役割を自覚させるとともに、社会規範を遵守する態度を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) ノートやレポートなどの提出率や内容評価によって、取組の積極性や意欲を評価する。</li> <li>(2) 球技大会、学校祭などの特別活動や部活動など、教科外活動に対して、担当者や部顧問から、年次の特色を評価する。</li> </ul>		
6 取組状況・実践内容等	7 評価視点	8 評価	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・年次会が中心となり、各部と連携しながら、生徒情報の交換、共有を行う。</li> <li>・規律のある行動を心がけさせ、社会規範やモラル意識の定着を図る。</li> <li>・朝読書を通して、落ち着いて学習に向かう姿勢を育成し、自己啓発の場となるよう促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①迅速かつ適切に対処し、共通理解を図ることができたか。</li> <li>②集団の一員として自覚を持って行動することができたか。</li> <li>③一日の始まりの有効な時間とすることができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(A) B C D</li> <li>(A) B C D</li> <li>A (B) C D</li> </ul>	
9 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「産業社会と人間」における様々な講話や講演、ライフプランの作成、インターンシップ等において、自己の将来について真剣に考えることができた。</li> <li>○身だしなみや集会における集合の様子など、年間を通じて一定程度の集団規律を維持することができた。</li> <li>▲教科の学習に対して、自ら課題を設定して意欲的に取り組む姿勢を十分に醸成するには至らなかった。</li> </ul>		総合評価
10 来年度に向けての改善方策案 <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種取組の趣旨を確認し、急いで形だけになることなく、生徒がじっくり考える場を設定する手法を模索する。</li> <li>・命と安全について最優先に考える姿勢をもつとともに、交通安全。情報モラル等についてはあらゆる機会を通じて啓発活動を行っていく。</li> <li>・年次会、生徒指導部をはじめ、関係部署との連携をさらに充実して、生徒の動きに迅速に対応した指導をおこなう。</li> </ul>			

◇ 評価する領域・分野		2年次	
1 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動をはじめ諸行事への取組が活発で、積極的である。</li> <li>・系列別総合学習等を通じて、進路設計をサポートしている。</li> <li>・学習に対する意欲が乏しく、進路実現に不安を感じる。</li> </ul>		
2 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 主体的な学習態度を確立するとともに、さまざまな体験を通して、自己の「あり方、生き方」を探求する態度を育成する。</li> <li>(2) 自己の個性を伸長させるとともに、諸活動に主体的に取り組む力を育成する。</li> <li>(3) 所属意識の定着とその一員としての自覚を持たせ、互いを尊重する思いやりの精神を養う。</li> </ul>		
3 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教務部、生徒指導部、進路指導部、系列との連携</li> <li>・年次会における情報共有</li> </ul>		
4 目標の達成に必要な具体的な取組	5 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 自らが選択した学習を通して、学習に対する真剣さと積極的な態度を育成する。</li> <li>(2) 学校行事や特別活動等への積極的な参加と、2年次生としての役割を自覚させ、主体的に行動できる力を育成する。</li> <li>(3) 社会、家庭、学校における集団生活の中で、規律の大切さを自覚させ、社会的規範を遵守する態度を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 進路希望実現のための基礎的及び応用的な学力や技術を身に付けることができたか。</li> <li>(2) ホームルーム活動や部活動、諸行事等に積極的、主体的に取り組むことができたか。</li> <li>(3) 規律ある行動、他者への思いやり、人権を尊重する生活態度であったか。</li> </ul>		
6 取組状況・実践内容等	7 評価視点	8 評価	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・年次会が中心となり、各部と連携しながら、生徒情報の交換、共有を行う。</li> <li>・規律のある行動を心がけさせ、社会規範やモラル意識の定着を図る。</li> <li>・自己の将来設計を見据えて、主体的な学習態度を確立させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①迅速かつ適切に対処し、共通理解を図ることができたか。</li> <li>②集団の一員として自覚を持って行動することができたか。</li> <li>③計画的、継続的な学習習慣を身に付けることができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Ⓐ B C D</li> <li>Ⓐ B C D</li> <li>A Ⓑ C D</li> </ul>	
9 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自ら選択した系列の総合学習を通して、自己の将来について真剣に考えることができ、外部模試や資格試験などにも積極的に取り組むことができた。</li> <li>○年次会での情報共有を密にし、問題解決に向けて関係部署との連携を図り、迅速かつ適正に対応することができた。</li> <li>○修学旅行では、生徒は目的を意識し事前研修や人間関係の構築に積極的に取り組むことができた。</li> <li>▲家庭における学習習慣が定着しておらず、定期考査前しか勉強しないという現状を打破する意識改革が必要である。</li> </ul>		総合評価 A Ⓑ C D
10 来年度に向けての改善方策案			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路目標やライフプランの実現に向け、基礎的な学力を身につけさせるため、家庭における学習習慣の定着を図る具体的な方策を、教務部や進路指導部、系列、教科とともに打ち出していく。</li> <li>・各自の進路目標に合わせて、個々の状況を把握した上で、適切かつ確かな助言を行うことができるサポート体制を教科や系列と連携して行えるよう整備する。</li> <li>・学校生活を送る中でさまざまな悩みを抱えた生徒が増えている。より専門的なサポートを行えるよう学校・保護者・カウンセラーの他、必要に応じて外部団体にも協力を求めながら行う。</li> <li>・交通事故や情報モラル違反等を減らすため、あらゆる機会を通じて啓発活動や考える機会を設け、生命の尊さや社会規範の持つ意味を理解させ、望ましい行動ができる人材を育成する。</li> </ul>			

【別紙様式1】

評価する領域・分野		3年次	
1	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>各個人の興味・関心・能力に基づいた進路設計を立てている。</li> <li>大半の生徒は社会人としてのマナーや社会規範が身に付いている。</li> <li>部活動のみならず諸行事が活発で、積極的に取り組んでいる。</li> <li>生徒個々の意識や取り組みに積極性が見られた。</li> <li>キャリア教育や部活動等、人間形成にも力を入れている。</li> </ul>	
2	今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 様々な体験や学習及び自己の「在り方・生き方」の探求を通して、ライフプランに基づいた進路目標を実現する力を育成する。</li> <li>(2) 個々の更なる伸長とともに、意識を持って諸活動に取り組む力を育成する。</li> <li>(3) 集団の一員としての自覚を持ち、学校行事等の運営に積極的に参画し、規範意識及び他者を尊重する精神を養う。</li> </ul>	
3	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>年次会が進路指導、生徒指導、教務など各分掌と連携を取りながら生徒の指導に当たる。</li> </ul>	
4	目標の達成に必要な具体的な取組	5 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 進路情報等適切に収集、分析、活用させるとともに、自らの考えを明確にさせる。</li> <li>(2) ホームルーム等、集団生活の中で、自らの役割を認識させる。</li> <li>(3) 他者とのコミュニケーションを通して、社会的弱者への配慮や人権遵守の精神の確立を図る。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 進路目標の設定、その実現に向けての具体的な計画立案及び努力が見られるか。</li> <li>(2) 部活動や学校諸行事、ホームルーム活動等に積極的且つ自主的に取り組んだか。</li> <li>(3) 規律ある行動、他者への思いやり、人権を尊重する生活態度であったか。</li> </ul>	
6	取組状況・実践内容等	7 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 年次会は、教務部、進路指導部、系列等と連携を密にして進路及び学習に関する情報交換を密に行おうとした。</li> <li>(2) 部活動や学校諸行事、ホームルーム活動等自主的に取り組めるよう計画した。</li> <li>(3) 機会あるごとに生徒の意識を喚起し、年次会内での意思統一を図り、同一視点での指導を図った。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>同じ意識で連携を取りながら指導がなされたか。</li> <li>各行事、行動に意義を持たせ、自主性を発揮させられたか。</li> <li>生徒の意識は向上してきたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(A) B C D</li> <li>A (B) C D</li> <li>A (B) C D</li> </ul>
8	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○3年次としての自覚を持たせ、進路実現に向けて前向きに取り組ませることができた。</li> <li>○平素の注意喚起が奏功したのか、事件・事故がたいへん少なかった。</li> <li>▲進路指導が決まった後、学習態度に緩みが出てきた生徒が少なからずいた。</li> <li>▲部活動での取り組みが、日常生活に生かされているとは言い難い。</li> </ul> <p>課題</p>	<p>総合評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>A (B) C D</li> </ul>	
9	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>受験のためだけでなく、生涯学習としての学習の大切さを理解させる。</li> <li>HR活動や、クラス内の状況、進路状況や指導の経過など、年次会では連絡を密にとり、情報共有はもちろんのこと、当事者意識を持って連携・扶助していく意識を、各担任が持たなければならない。</li> <li>本校の幅広い進路希望に適切に対応するため、進路指導部・各系列との連携は本より、各担任一人一人が進路指導について深く研究しなければならない。</li> </ul>		



## Ⅱ 学校関係者評価

令和2年2月実施

### 【意見・要望・評価等】

- 意見1： 教務・進路指導・生徒指導部がそれぞれ課題を明確にして、データを分析し、次年度に取り組むというPDCAサイクルがしっかりできている。本日の生徒発表は、1年次に立てたプランを2,3年次でより確かなものにしていくというよい取組だと思う。前回の会議で、生徒の自転車マナーについて改善を求めたが、最近は一旦停止や、止まってくれた車に礼をするなど、マナーはよくなっている。
- また、発災時には本校が地域の避難所に指定されているため、災害対応について地域と学校が話し合う必要があると考えている。東日本大震災時の釜石でも、学生が援助者として活躍したことから、高校生も助ける側として活躍してほしい。生徒たちが充実した学校生活を送れるよう、地域も見守っていききたい。
- 最近の高校生は「自分に自信を持つ」とか「困難に立ち向かって頑張る」といった力が弱いと感じる。日頃から頑張っていることを評価して自信を持たせ、迷っている時は方向性をアドバイスしてあげてほしい。
- 意見2： 授業評価の結果から、教職員が授業改善に向けてよく努力していることがわかった。学校のホームページは、生徒だけでなく保護者の関心が高いと思うので、こまめに更新されているのはよいことだと思う。中学校への出前講座はとてもよい取組で、高校生にこんなことができるのかと驚いた。いろいろな取組をしていただき頭が下がります。
- 意見3： 生徒・保護者の理解を得ている校則に、外部からの声で見直しが迫られているが、集団指導やマナー、挨拶指導は、学校としてこれまで通り大切にしていきたい。ある程度の厳しい指導は必要なので、全教員の共通理解により、指導を行ってほしい。
- 意見4： ライフプラン発表会、耐寒競歩大会、日々の部活動など、生き活きと活動する生徒の姿は素晴らしく、職員の指導が行き届いていることがわかる。引き続きお願いしたい。
- 意見5： 各報告から、職員の努力が伝わってくる。また、職員が多忙である状況もわかった。勤務先の紹介になるが、VRを使った浸水体験や建築系出前講座を実施しているので、高校生を「守られる側から守る側」に育てるために、防災教育等で是非活用してほしい。
- 意見6： ライフプランの発表は、自己洞察力や表現力を高め、自分を見つめ将来を考えた発表で素晴らしかった。また、各分掌での課題解決に向けた取組を今後も継続してほしい。職員の努力によって特色ある教育が行われている。